

新型コロナウイルス感染症予防

高齢者施設の感染対策

～感染管理認定看護師の訪問支援から～

令和2年12月4日

山梨県福祉保健部 健康長寿推進課

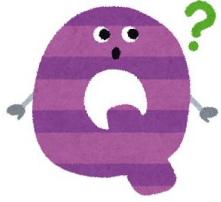
高齢者施設のみなさまへ

日頃から、本県の高齢者福祉施策の推進にご協力いただき感謝申し上げます。

この度、「山梨県医療機関の感染管理に関する検討会(福祉保健部医務課設置)」の協力を得て、感染管理認定看護師2名に高齢者施設を訪問していただきました。その際の新型コロナウイルス感染症対策に関する助言をまとめましたので参考にしてください。

ご協力をいただいた勝沼ナーシングセンターの皆様、感染管理認定看護師の皆様に、厚く御礼申し上げます。

- | | | |
|---|------|---|
| 1 | 目 的 | 感染管理認定看護師が施設を訪問し、現場で感染対策の現状と課題を把握しながら助言をすることにより、該当施設の感染対策に資するとともに、その内容を広く周知し、県全体の高齢者施設の感染予防対策の強化を図る。 |
| 2 | 日 時 | 令和2年11月2日(月)午後2時～4時30分 |
| 3 | 訪問施設 | 勝沼ナーシングセンター |
| 4 | 内 容 | <ul style="list-style-type: none">・ 施設の事務長、看護師長から、「感染対策の取組と課題」「対策をすすめる上での疑問点」について説明・ 施設内の巡回・ 認定看護師からの助言 |



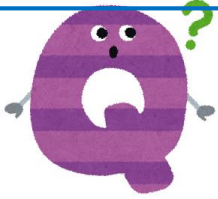
施設からの質問 1

職員の家族が発熱しているときはどうしたらいいか。現状では、職員は出勤して良いことになっている。



認定看護師からの助言

- ◇施設ごとに決めていくことであるが、例として、ある所属では、家族に何らかの症状があっても本人に症状がなければ出勤は可としている。しかしその家族が「PCR検査が必要」となれば職員は自宅待機としている。家族の検査の結果が陰性であっても、その家族はなんらかのウイルス感染があったことも考えられるため、職員は2週間、朝夕の健康状態を確認しながら出勤している。もし職員自身に症状が出れば休んでもらう。
- ◇また、別の所属の例として、職員自身に症状がなければマスク・手指消毒を徹底のうえ出勤し、朝・昼の一日2回の健康チェックを続けることとしている。参考に。



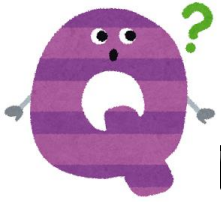
施設からの質問 2

職員の家族が新型コロナウイルス感染症になった場合、職員はいつから出勤させて良いか。



認定看護師からの助言

- ◇ 保健所の指示に従うことになる。濃厚接触者になれば2週間の自宅待機となる。濃厚接触者は保健所が決める。
- ◇ 職員の健康管理シートを作成し活用する。一定期間、経時的に健康状態が把握できるよう、例えば一月分が1枚となったシートを作成し使用するとよい。出勤日だけでなく、休みの日も含めて記録する。
- ◇ 職員の体温測定は、出勤してから測定するのでは遅い。大事なことは「出勤前に」体温測定をすること。出勤時に体温が高いとわかったのでは、感染を持ち込む危険がある。



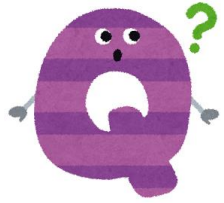
施設からの質問 3

マスクをしていない(できない)利用者さんがいる場合の感染対策はどのようにしたら良いか。



認定看護師からの助言

- ◇ マスクをしていない利用者さんに接近してケアの提供をする場合、職員は、マスクに加えてゴーグルやフェイスシールドを着用して目からの感染を防ぐ。ゴーグルは百元ショップでも売っているので参考に。
- ◇ あらためて、利用者や家族にマスク装着の協力をお願いすることをしてはどうか。「インフルエンザが心配な時期・・・」など銘打つこともよいのではないか。
- ◇ 普段、施設ではマスクがつけられない方にも、医療機関に行くときだけはマスクをつけてもらうことも意味がある。



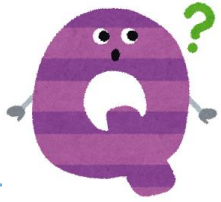
施設からの質問 4

38.8℃の発熱があった利用者さんは、**PCR検査**の結果が出るまでは個室で待機していただいた。
結果が(-)であれば解除して良いか。



認定看護師からの助言

◇すぐに解除するのは早すぎる。検査結果が陰性でも感染の可能性は否定できない。個室対応が望ましい。



施設からの質問 5

当施設では7/15から対面での面会とオンライン面会を実施している。対面の場合は、事前予約のうえ、健康状態確認シートに記載してもらい、ご家族に検温、マスクの着用、手洗い、アルコール手指消毒をお願いしている。利用する机と机の距離をとり、両側にアクリル板を設置し、部屋の換気を行っている。利用者さんには職員が付き添っている。午前中を対面面会とし、9:30からと10:30からと時間を決め、2回(2組)実施。午後はオンライン面会としている。しかし、オンライン面会では、理解できない人も多い。

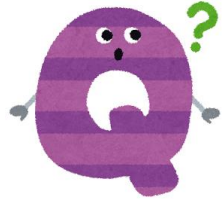
対面面会の工夫は。また、県外の面会者はチェックシートを付けていただいても恐いと感じるがどのようにしたら良いか。



認定看護師からの助言

- ◇地域の発生状況や都道府県等が示す対策の方針等を踏まえて、施設管理者が面接の制限の程度を判断するのがよい。ある所属では、県内県外関係なく一日5人の枠で、受入の立会人をつけている。濃厚接触者でないことをしっかりチェックしている。また、当面、面会を全面禁止している所属もある。こちらでは、工夫して面会を行っていると感じる。

【参照】令和2年10月15日厚生労働省事務連絡「社会福祉施設における感染拡大防止のための留意点について(その2)(一部改正)」P3~4。



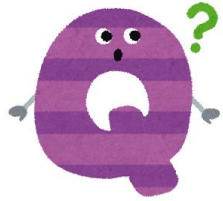
施設からの質問 6

感染した疑いのある人がいる場合、検査結果が出るまでの**食器の扱い**についてききたい。
現状では、次亜塩素酸ナトリウム液に浸している。



認定看護師からの助言

◇食器は、使い捨て容器を使用すれば労力がかからず、感染対策としてよいのではないか。



施設からの質問 7

通所リハビリテーションの**送迎**についてききたい。朝8：30に迎えに行き、1時間程度車に乗っている利用者さんもある。夏場は換気を行っていたが、寒い時期はどのようにしたらいいか。利用者さんは10分間隔で乗り、乗車時は2～3分ドアを開けている。

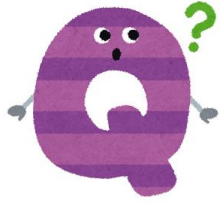


認定看護師からの助言

◇できる範囲で寒くない程度に換気。乗降時、駐車している時間にドアやバックドアを開ける、走行時は窓を薄く開けるなど。また、咳などの呼吸器症状がある人には休んでいただくことも必要。

■ 新たな知見として
エアコンを「外気導入モード」にして風量を通常レベル(最大風量の半分)以上とする。

【参照】「室内環境におけるウイルス飛沫の予測とその対策 課題責任者 理化学研究所/神戸大学 坪倉誠。R2年11月26日記者勉強会動画資料final」から



施設からの質問 8

通所リハビリテーションやショートステイでは、利用者さん同士、飛沫がかからないように透明なアクリル板の設置をしたり、幅の広いサランラップで衝立の代用品を手作りし設置している。感染予防対策としていかがか。



認定看護師からの助言

- ◇互いの飛沫がかからないためのアクリル板等の設置はよい対策である。
- ◇食事の時間をずらすことができると良い。
- ◇利用者さんの座る位置をやや広げられると良い。





全体を通して

◇一人の利用者さんへのケアから次の利用者さんのケアに移るときには、手洗いをするのが望ましいが、それができない場合には、手指をアルコール消毒する。職員は、腰に付けるか、肩から下げるかして**一人1つアルコールを携帯**してケアをするとよい。

◇**スタッフが集まり密になる場面**では、感染の危険性が高まるので注意する。

具体例 申し送りは、短時間でなるべく少人数で行う工夫をすることが必要。

休憩室は少人数で使用し、換気と消毒を徹底する。

◇消毒は、人の手が触れるところ(高頻度接触面)を行う。テーブル、リモコン、スイッチなど。

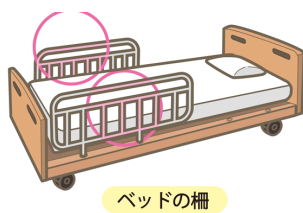
別添「山梨県医療機関の感染管理に関する検討会COVID-19感染症対策 環境整備vol1」を参照

環境整備 Ver.1

1. 新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）は、70%アルコールおよび0.05%の次亜塩素酸ナトリウムが有効である。
2. 高頻度接触部位や医療器材などは、アルコールや抗ウイルス作用のある消毒剤含有のクロスでの清拭消毒を行う。
3. 環境清掃を行うスタッフは自身への曝露を最小限にするように配慮する。
 - ・適切なPPE（手袋、サージカルマスク、ガウン、フェイスシールド/ゴーグル）の着用
 - ・必要最低限の入室

入院病床の清掃

1. 高頻度接触面*は1日1回、推奨される消毒薬含有のクロスで清拭消毒を行う。
 - * 手すり、ベッド柵、ドアノブ、スイッチ、テーブル、ナースコールなど手や指が良く触れる設備や物品表面



※清拭消毒時は **1方向**に拭くこと



右から左へ（または左から右へ）、上から下へ（または下から上へ）
軽く力を入れて一方向に拭きあげる。一度拭いたところを往復させない。

2. 手が触れない環境表面（床や壁など）は、定期的に埃や汚れを取り除く。
 - ・ 床の清掃は埃を舞い上げないように乾式モップ（フローリングワイパー）を使用する。
 - ・ 患者の行動（壁に寄り添って歩く等）を観察し、手の触れる面は高頻度接触面と考える。
3. トイレ、浴室は専用の洗浄剤を用いて清掃する。
 - ・ トイレの便座やハンドルは高頻度接触面として消毒する。

※留意点

- ・ 清掃はゾーンごとに行う。
- ・ 使用物品はゾーンごとに分け、物品を持ち込んだり持ち出したりしない。
 - * レッドゾーン（汚染区域）に持ち込んだ物品をグリーンゾーン（清潔区域）に出す場合は、清拭消毒を行う。